

Anthropic 春季発表の製品分析

エグゼクティブサマリー

米AI企業の Anthropic ¹ が2026年4月に同時投入したのは、基盤モデルの強化版である **Claude Opus 4.7** と、その上に載る新しいビジュアル制作ワークスペース **Claude Design** でした。結論だけ先に言うと、**Opus 4.7** は「高信頼の推論・コーディング基盤」への前進であり、**Claude Design** は「要件→ビジュアル→実装」の前工程を短縮する業務ツールです。前者は API・SDK・クラウド統合を含む“実装層”、後者は Web GUI 中心の“ワークフロー層”として見るのが適切です。 ²

- **Opus 4.7** は 2026年4月16日に一般提供開始。価格は Opus 4.6 と同じ **入力 \$5 / 出力 \$25 per MTok** ですが、**新トークナイザー**で同じ入力が **1.0~1.35倍のトークンになる可能性**があり、移行時の実質コストは単価据え置きでも上がり得ます。高解像度ビジョン、`xhigh` effort、task budgets、より厳密な指示追従が主要差分です。 ³
- **Claude Design** は 2026年4月17日に research preview として公開。**Opus 4.7** を基盤に、会話からプロトタイプ、スライド、ワンページャー、マーケ素材を作る Web 製品です。企業導入では、**デザインシステム整備が前提**で、現時点では **Web UI のみ・監査ログなし・データレジデンシー非対応**という制約が強く、正式なエンタープライズ製品というより **Labs 系の先行導入枠**と捉えるべきです。 ⁴
- 技術プロダクトマネージャー視点では、**業務自動化・コード生成・文書理解の中核モデルを更新したいなら Opus 4.7** を先に評価し、**非デザイナーを含む企画・提案・試作の前工程を縮めたいなら Claude Design** を限定導入するのが妥当です。両者は競合ではなく、**Design で初稿→Claude Code/Opus で実装**という補完関係が最も実務的です。 ⁵

要点比較

公開履歴ベースでは、Opus 系は 2025年5月の Claude 4 から 4.5、4.6、4.7 と短い間隔で更新され、Claude Design は 2026年1月の Labs 立ち上げを経て 2026年4月17日に初の public research preview が出ています。**Claude Design の内部版履歴や専用モデル系譜は公開資料では未特定**です。 ⁶

```
timeline
  title 公開マイルストーン
  2025-05-22 : Claude 4 公開
              : Opus 4 / Sonnet 4
  2025-11-24 : Opus 4.5
  2026-01-13 : Anthropic Labs 発足
  2026-02-05 : Opus 4.6
  2026-04-16 : Opus 4.7 一般提供
  2026-04-17 : Claude Design research preview
```

観点	Opus 4.7	Claude Design
機能	一般提供中の最上位汎用モデル。1M context、128k max output、adaptive thinking、同社の各製品面・API・主要クラウドで利用可能。 ⁷	会話型のビジュアル制作製品。プロトタイプ、スライド、ワンページャー、HTMLなどを生成し、ブランド準拠のデザインシステムを適用。Web UI 中心。 ⁸
用途	長時間コーディング、エージェント運用、文書編集、画像理解、知的実務。 ⁹	企画初稿、UIモック、提案資料、マーケ素材、プロトタイプから実装ハンドオフまで。 ¹⁰
価格帯	API は \$5 / \$25 per M Tok、Batch は \$2.5 / \$12.5。ただし新トークナイザーで実質使用量増の可能性。 ¹¹	Pro/Max/Team/Enterprise に同梱だが、Claude 本体とは別メーターで週次枠を持つ。個人プランは Pro \$20/月、Max \$100~\$200/月。usage-based Enterprise では標準 API レート課金。 ¹²
導入難易度	中~高。Prompt 再調整、token 監視、breaking changes への対応が必要。 ¹³	低~中。ただし企業導入では design system 整備、RBAC、品質確認が必要で中~高に上がる。 ¹⁴
主な利点	価格据え置きで性能強化。高解像度ビジョン、厳密な指示追従、自己検証寄りの挙動。 ¹⁵	非デザイナーでも短時間で視覚化でき、Design→Code の引き渡しが多い。 ¹⁶
主な欠点	token 増、より literal な挙動、旧 prompt/パラメータとの互換性問題、ユーザー反発の初期ノイズ。 ¹⁷	preview 段階、Web UI 限定、監査ログなし、データレジデンシー非対応、既知の UI/保存エラーあり。 ¹⁸

Opus

機能・位置づけ。 Claude Opus 4.7 は 2026年4月16日公開の一般提供モデルで、API ID は `claude-opus-4-7`。仕様上は **1M token context window**、**128k max output tokens**、**adaptive thinking**、Opus 4.6 と同等のツール/プラットフォーム機能を持ちます。利用面は Claude 各製品、API、主要クラウドまで広く、公式 SDK も Python、TypeScript、Java、Go、Ruby、C#、PHP、CLI をカバーします。一方で、**パラメータ数・学習計算量・モデルサイズは公開資料で未特定**です。バージョン履歴は、Claude 4（2025年5月22日）→ Opus 4.5（2025年11月24日）→ Opus 4.6（2026年2月5日）→ Opus 4.7（2026年4月16日）と読みます。 ¹⁹

差分・新機能と競合比較。 Opus 4.7 の主要差分は、**高解像度ビジョン**（長辺 2576px / 約3.75MP）、**xhigh effort** の追加、**task budgets** の導入、**adaptive thinking への一本化**です。Breaking changes も明確で、`budget_tokens` 付き extended thinking は 400 エラー、`temperature` / `top_p` / `top_k` の非デフォルト指定も 400 エラー、thinking テキストはデフォルト非表示、さらにトークン計数が変更されています。移行ガイドは、プロンプトと実 traffic での再計測を前提にしています。競合観点では、同社資料と業界報道を合わせると、Opus 4.7 は **OpenAI ²⁰ の GPT-5.4 や Google ²¹ の Gemini 3.1 Pro に対して一部の agentic coding / knowledge-work 指標で優位**ですが、“**全面勝利**”ではない。さらに同社自身の説明では、限定公開中の Mythos Preview は Opus 4.7 を「すべての relevant eval」で上回っており、Opus 4.7 は capability frontier そのものではなく、より広く使える安全寄りの一般提供版という位置づけです。 ²²

実務インパクト。 実務面で強いのは、長時間のコーディング、コードレビュー、文書編集、図表・スクリーンショット理解です。公式の early-access 事例では、楽天グループ²³ が本番相当タスク解決数の大幅増を、Notion²⁴ が多段ワークフローでの改善と tool error の減少を、CodeRabbit が複雑 PR での recall 改善を報告しています。日本語報道でも、窓の杜²⁵ と ビジネス+IT²⁶ は、**指示順守と自己検証の強化**、高解像度化、価格据え置きを実務的な要点として整理しています。導入時の要注意点は、**単価据え置きでも token 使用量が増えること**、旧 prompt が literal interpretation で崩れること、画像高精細化でも token 消費が増えることです。運用上は `effort` と `task_budget` の校正、`max_tokens` の見直し、既存 harness の再評価が必要です。²⁷

セキュリティ・コンプライアンス・評判。 同社は commercial products について、顧客データの取り扱い主体を **processor** と位置づけ、**商用プロダクトでは既定で学習に使わない**としています。Team / Enterprise では retention controls があり、商用向け認証として SOC 2 Type I/II、ISO 27001、ISO/IEC 42001、HIPAA-ready を掲げています。対して consumer の Pro/Max では、ユーザーが許可した場合や feedback、safety review などの条件で会話や coding session が改善に使われ得るため、同じ“Claude”でも plan/surface でプライバシー前提は異なります。Opus 4.7 自体は safety profile が Opus 4.6 と概ね同等で、prompt injection 耐性など一部は改善。一方で cyber 能力は Mythos Preview より抑えられ、Cyber Verification Program により正当利用の security professionals への開放を図っています。評判は二極で、The Verge²⁸ は「一般提供モデルとしては最強だが Mythos より限定的」と整理し、Business Insider²⁹ は token 消費、adaptive thinking、品質回帰への不満を拾っています。したがって現実的には、**高性能だが“そのまま差し替え”ではなく、移行プロジェクトとして扱うべきアップデート**です。³⁰

Claude Design

機能・位置づけ。 Claude Design は 2026年4月17日に research preview として公開された Anthropic Labs 製品で、**Claude Opus 4.7 を基盤**に、会話から **デザイン、インタラクティブプロトタイプ、スライド、ワンページャー、マーケ素材**を作ります。入力面ではテキスト、画像、DOCX/PPTX/XLSX、コードベース、Web capture を受け、編集面では会話、インラインコメント、直接編集、調整スライダーを備え、出力面では Canva/PDF/PPTX/standalone HTML/組織内 URL 共有、さらに Claude Code への handoff bundle があります。現時点で公開サポート文書が示す UI は **Web interface のみ**で、**公開 API / SDK は未特定**です。また、専用モデルサイズや内部チューニング詳細も公開資料では未特定です。³¹

競合との比較。 この製品は、フル機能のデザインスイートというより“**アイデアをブランド準拠の可視化に変える前工程ツール**”と見るべきです。TechCrunch³² は、**デザインバックグラウンドのない founders や product managers を主対象**とし、Canva の代替というより補完だと整理しています。他方で市場は、Figma³³ やクリエイティブツール群への圧力として受け止めており、J-CASTニュース³⁴ も“対話でプロトタイプや資料を作る”新製品として速報しています。つまり比較軸は「Figma の完全代替」ではなく、**Figma / v0 / Lovable / Canva が担っていた“初稿・試作・共有”の一部を conversational に奪うか**です。現時点では、厳密なデザイン編集や統制済み運用よりも、**企画初期の速度と部門横断コラボ**に重心があります。³⁵

実務インパクト。 実務価値はかなり明確で、PM は feature flow の wireframe を即座に起こし、営業や創業者は rough outline から deck を作り、マーケは campaign visual を作り、デザイナーは static mockup を interactive prototype に変えられます。公式事例では、Canva³⁶ は Claude Design から Canva へ fully editable に流せる連携を強調し、Brilliant³⁷ は他ツールで 20 以上必要だった prompt が 2 で済んだと述べ、Datadog³⁸ は「1週間の往復が1会話に短縮」と評価しています。企業導入では、**design system first** が設計原則で、コードベース、スライド、ブランド資産から colors / typography / components を抽出し、組織の custom roles と phased rollout で広げる運用が推奨されています。料金面では、Claude 本体とは **別メーター**で週次枠があり、個人向けは既存有料プラン内、Team では per-user allowance、usage-based Enterprise では標準 API rates 課金です。³⁹

セキュリティ・プライバシー・評判。 Claude Design の一番大きな留意点は、**生成品質より governance の未成熟さ**です。サポート文書によれば、uploaded assets は persistent に保存され、他の enterprise products と同じ retention / deletion policies の対象ですが、**data residency は未対応**です。さらに **audit logs と usage tracking が未対応**で、第三者クラウド契約経由でもなく **Web 専用**です。加えて既知の制限として、**inline comment の消失、compact view の save error、巨大リポジトリでの lag、chat upstream error** が案内されています。評判は概ね好意的で、TechCrunch は non-designer による quick visuals を前面に出し、The Verge は Opus 4.7 を土台にした新しい design product と紹介しました。ただし technical PM の導入判断としては、**ブランド整合の速い初稿生成には強いが、監査・居住地要件・厳格な統制が必要な本番運用にはまだ不完全**です。加えて consumer の Pro / Max で使う場合は、consumer privacy settings の扱いを別途確認すべきです。Anthropic は consumer 側では、ユーザーの許諾、feedback、安全審査などの条件で chats / coding sessions を改善に使う場合があると明記しています。 ⁴⁰

導入判断

技術プロダクトマネージャー向けに要点を一文でまとめると、**Opus 4.7 は「高性能だが移行コストのある基盤更新」、Claude Design は「ガバナンス制約付きだが業務前工程を大きく短縮する新しい UI」**です。もし目的が API 経由の agent、コード支援、文書・画像理解なら Opus 4.7 を先に本番評価すべきです。もし目的が PM・営業・マーケ・デザイン間の handoff 圧縮なら Claude Design の pilot が効きます。両方を合わせると、**要件→試作→承認→実装**のリードタイムが最も縮みませんが、Design は当面 **部門限定の preview 導入**、Opus は **段階的ロールアウト** が安全です。 ⁴¹

典型的な企業統合パターンは、公式導線を整理すると次のようになります。Design system の抽出、会話ベースの初稿生成、Canva/PPTX/PDF 共有、あるいは Claude Code / Opus 4.7 への handoff という流れです。

⁴²

flowchart LR

```
A[ブランド資産 / コードベース / 既存資料] --> B[Claude Designで design system 抽出]
B --> C[会話でプロトタイプ・資料を生成]
C --> D{成果物の行き先}
D --> E[PDF / PPTX / Canva / 組織共有]
D --> F[Claude Code へ handoff bundle]
F --> G[Opus 4.7 で実装・レビュー・検証]
G --> H[権限制御 / セキュリティ確認 / 人間レビュー]
H --> I[本番反映]
```

参照ソース

一次情報は、Anthropic の公式発表、Release notes、API Docs、Pricing、Privacy / Trust / Help Center を中核に置きました。Opus 4.7 の仕様・移行差分・価格・安全性は公式 docs が最重要で、Claude Design の導入設計・制約・価格も Help Center が最も具体的です。 ⁴³

日本語ソースとしては、窓の杜 ²⁵、ビジネス+IT ²⁶、J-CASTニュース ³⁴ が、Opus 4.7 の性能・価格据え置き・導入注意点、および Claude Design の公開内容を整理しており、国内向け解像度の補助として有用でした。 ⁴⁴

英語圏メディアでは、The Verge ²⁸ が Opus 4.7 と Mythos Preview の位置づけ差を、TechCrunch ³² が Claude Design のターゲットと補完的な競争軸を、VentureBeat ⁴⁵ がベンチマーク上の相対優位と限界を、

Business Insider ²⁹ が初期 backlash を補いました。補助的に Reuters ⁴⁶ は 2026年4月のクリエイティブ AI市場文脈の確認に使えます。 ⁴⁷

¹ ¹² ³² <https://support.claude.com/en/articles/14667344-claude-design-subscription-usage-and-pricing>

<https://support.claude.com/en/articles/14667344-claude-design-subscription-usage-and-pricing>

² ³ ¹⁵ ²¹ ²⁵ ²⁷ ³³ ³⁴ ⁴¹ ⁴³ <https://www.anthropic.com/news/claude-opus-4-7>

<https://www.anthropic.com/news/claude-opus-4-7>

⁴ <https://support.claude.com/en/articles/12138966-release-notes>

<https://support.claude.com/en/articles/12138966-release-notes>

⁵ ⁸ ¹⁰ ²⁴ ²⁶ ³¹ ³⁶ ³⁹ ⁴² <https://www.anthropic.com/news/claude-design-anthropic-labs>

<https://www.anthropic.com/news/claude-design-anthropic-labs>

⁶ ²⁰ <https://www.anthropic.com/news/claude-4>

<https://www.anthropic.com/news/claude-4>

⁷ ⁹ ¹⁹ ²² ²⁸ ³⁷ <https://platform.claude.com/docs/en/about-claude/models/whats-new-claude-4-7>

<https://platform.claude.com/docs/en/about-claude/models/whats-new-claude-4-7>

¹¹ <https://platform.claude.com/docs/en/about-claude/pricing>

<https://platform.claude.com/docs/en/about-claude/pricing>

¹³ ¹⁷ ²⁹ <https://platform.claude.com/docs/en/about-claude/models/migration-guide>

<https://platform.claude.com/docs/en/about-claude/models/migration-guide>

¹⁴ ¹⁸ ²³ ⁴⁰ ⁴⁵ <https://support.claude.com/en/articles/14604406-claude-design-admin-guide-for-team-and-enterprise-plans>

<https://support.claude.com/en/articles/14604406-claude-design-admin-guide-for-team-and-enterprise-plans>

¹⁶ ³⁵ <https://techcrunch.com/2026/04/17/anthropic-launches-claude-design-a-new-product-for-creating-quick-visuals/>

<https://techcrunch.com/2026/04/17/anthropic-launches-claude-design-a-new-product-for-creating-quick-visuals/>

³⁰ <https://support.claude.com/en/articles/9267385-does-anthropic-act-as-a-data-processor-or-controller>

<https://support.claude.com/en/articles/9267385-does-anthropic-act-as-a-data-processor-or-controller>

³⁸ ⁴⁷ <https://www.theverge.com/ai-artificial-intelligence/913184/anthropic-claude-opus-4-7-cybersecurity>

<https://www.theverge.com/ai-artificial-intelligence/913184/anthropic-claude-opus-4-7-cybersecurity>

⁴⁴ ⁴⁶ <https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2102386.html>

<https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2102386.html>